

2020年度（令和2年度）第1回番組審議会 議事録

開催方法 : 今回は新型コロナウイルス渦にて開催できず、各位に試聴レポートにて提出してもらいました。
提出者 : 番組審議会委員4名
委員名 : 金子 富康、上田 薫子、伊藤 ゆかり、斎藤 進治
事務局 : 藤芳 祥子、濱野 歩、岩崎 和沙
議事録 : 番組審議会事務局: 岩崎 和沙 作成

■ 議題

1. 審議番組名「モノオと奈々子のごきげん歌謡曲」収録放送 パーソナリティ: モノオ、正木奈々子
2. 放送時間 5月15日 PM 19:00~19:30 放送
3. 議題の放送番組全般に関するご意見、ご感想について
4. その他FM戸塚の放送に関するご意見ご感想について

■ 議題番組について (事務局から説明)

番組「モノオと奈々子のごきげん歌謡曲」に関する事務局からの説明

【番組制作のきっかけ】

戸塚区には幅広い年齢層の方がお住まいになりますが、関東圏のなかで戸塚店は利用者の平均年齢が高く、演歌歌謡曲のジャンルも歌われる率が高いと某カラオケボックスのチェーン店の本部による統計が報告されています。戸塚の街にふさわしいテーマの番組を制作し、演歌歌謡曲を聴いていただきたいと考えました。

【経緯】

2020年3月までは60分番組として制作、月に2回放送していましたが、この4月にリニューアルし、30分番組というかたちで、毎週1回を放送しています。

【2020年リニューアル内容と目的】

これまでは、最新曲から昭和、平成の名曲をセレクトしてご紹介する番組でしたが、30分になったので、ゲストの最新曲を中心にご紹介する番組になりました。

基本、演歌歌謡曲の歌手をゲストに出演していただいております。

戸塚出身や戸塚、横浜で活躍する方もお呼びしますが、NHKの歌番組に出演する全国的に有名なゲストさんをスタジオにお呼びすることで、エフエム戸塚を聴いていただくこと、戸塚、東戸塚の知名度を上げることもこの番組の役目だと考えます。尚、新型コロナウイルス感染拡大の影響でスタジオにゲストをお呼びすることが難しく、当面は、ゲストさんからコメントをいただき、最新曲をご紹介するという構成をとっております。

■ 各審議委員からの試聴意見・感想は以下の通り。

審議委員（A）

- ・スタートからの二人の会話がとってもスムーズでした。
- ・奈々子さんが美容師資格を持たれていると言われていたフレーズも、耳を傾けてしまいました。
- ・コンセプトは地元の歌謡番組と言う位置づけですかね？
- ・ゲストを著名人（歌手）にするのは良いと思いますが、如何しても好き嫌いが出てしまいますので、ご一考ください。
- ・放送時間は19：00～ですから、やはりながら聞けると内容と思いました。
- ・時間の関係も有ると思いますが、やはり30分に一回は交通情報・電車状況も聞きたいですね？
- ・とっても短い30分でした。

審議委員（B）

- ・季節や世の中の情勢を捉えた選曲になっていて、聞いている人が各自、自分の思いを歌詞や曲調に投影していたのではないかと思います。
- ・途中、モノオさんと奈々子さんのトーク部分でバックに流れるBGMが、トークを邪魔することなく、かつトークの軽快なテンポを後押ししており、聞いていて良かったです。
- ・普段、聞かないジャンルの歌や歌手の歌が聞けるのは、ラジオの良いところだと思います。

審議員（C）

- ・私自身がラジオを聞き慣れていないためか、1回目さっと聞いた際には番組に登場する方がどなたなのか、どういう方なのかについて頭になかなか入って来ませんでした。2回目注意して聞き直すと、お名前も、その方の歌であることもちゃんと語られていましたが・・・。
- ・ラジオは特に傾聴ということだけでなく聞く方も多くなかで、どのような方針で番組を作られているのか、興味が湧きました。

番組審議員（D）

- ・出だし、奈々子さんの生い立ちに触れ、「住み慣れた土地を離れざるを得なかった」「住み込みの仕事」あるいは「一時間百円のアルバイト」の話は、私自身の年齢（72歳）世代と重なるような気もして、果たして奈々子さんはお幾つかな？と関心を持ちました。思いつき時代をさかのぼったようでもあるが、苦労人のお人柄を表すエピソードからのイントロ部分を感じ入ったリスナーも多いのではないのでしょうか。
- ・番組制作の紹介にもあったように、戸塚のリスナーは年齢層が高いことを意識して、演歌・歌謡曲を聞いてもらいたいという意図が理解できました。
- ・今回のゲストは氷雨をヒットさせた日野美歌と聞いたが、30分番組の中でどのように出演するのだろうか、と番組の構成に注目していました。
- ・奈々子さんの生い立ちとも重なるように、日野美歌さんは「桜の刻」や「いのりのうた」には、願い、出会いと別れ、恋愛やそれらの儂さなどが込められていると紹介されていました。奈々子さんの生き方に沿ったかのような、ゲストとのメッセージ対談だったように思います。思わず日野美歌さんのプロフィールをインターネット

で追って、幅広活動をしていることを知り、また「コロナ、ぶっ飛ばせ！プロジェクト」を楽しませてもらいました。

・このお二人の番組は以前に何度か聞いており、モナオさんのライブも聞いたことがあります。今回はCDを聞いて、モナオさんの歌声がとてもソフトで優しさが溢れているようでした。奈々子さんとの掛け合いのときの話し方とだいぶ違うような印象があり、ある意味モナオさんの人なりの両面をラジオは感じさせるといった感じです。ラジオの面白さかもしれません。

■ 事務局から

・各委員のご発言のなかで、いいところは沢山ある番組であるが、課題として上げられるのは、①番組全体では番組進行が早すぎること。これはパーソナリティ相浦やよい氏の話し方に関わる問題として、②聴かせる企画コーナーにおける企画内容の伝え方の不明確さ、そして③相浦やよい氏のパーソナリティとしての話術について、と大きく3点が上げられると思う。この点についてご説明するとともに、改善すべき点を本人に伝えて行くことにしたい。

1) 相浦やよい氏のパーソナリティとしての話術について

ニュースや交通情報、天気予報など情報伝達については、つかえたり、トチッたり、誤読する、といった点に関しては、放送準備不足の一点に尽きると思う。もう一つは企画コーナーなどに見られることだが、説明不足が多いこと。同じ現場に居た人へ話しかけるような、相手もその場の内容を知っていることを前提として話を進めていることに原因があると思う。これは相浦やよい氏のライフスタイルとかわりがあり、接触している人々だけに聴かせるスタイルになってしまっている。コミュニティFMのパーソナリティの在り方として、相浦氏の番組ターゲットの捉え方の良し悪しをもう少し突っ込んで検討する必要があると思う。彼女のスタイルを、地域メディアとしてあってもよいという意見もあると思うで・・・。

2) 聴かせる企画コーナーにおける伝達の不明確さについて

これは、1)とも関連すると思うが、相浦氏が現場に居た人に聴かせるような話し方があり、説明不足になっているのではないかと。現場にいないリスナーには分からないことになる。企画コーナーでは、取り上げる話題を、事前に分かりやすく説明しておく必要がある。それさえあればそんなに分かり難いことはないのではないかと。この点は本人にアドバイスします。

3) 相浦やよい氏のパーソナリティとしての話術について

この課題は、相浦氏がコミュニティFMのパーソナリティとしての意識に関わるものだと思う。それは〈リスナー＝知り合い〉として意識する場合と〈リスナー＝地域住民〉として意識する場合。この違いは同じ地域に住む人でも知り合いでない人にも聴いている、聞いてもらう、という意識があるかないか、という問題である。これはC委員が指摘している問題とも関連する。～「パーソナリティは個人的な話題は控えるもの」という不文律のルールがあると聴くが・・・～という発言。

事務局が把握していることは、その昔全国放送のNHKがアナウンサーに指導していたという記憶があるが、現代ではNHKも民放もアナウンサー＝パーソナリティはリスナーに対してその人の個性を表出することが好まれるとして、個人の生活環境や趣向を話のなかに出して行く傾向が強くなり、コミュニティFMのパーソナリティとしても同様な受け止め方をしている。しかし全国放送と地域放送では、自ずから違いがあるので、パーソナリティの在り方に違いが生まれる。

相浦氏の場合は、ご自身は無意識かもしれないが、地域リスナーのなかでもさらに限定したリスナーをターゲットに話しているところがあるように感じられる。コミュニティFMという地機メディアなので、相浦方式も時にはあってもいいと思うところもあるが、これは放送局の姿勢にもかかわるので、ここではいいとも改善すべきとも言い難い。ただ一つだけ申し上げるならば、相浦やよい氏が企画・構成・パーソナリティを演じるこの番組が、朝日新聞やNHK・TVに取り上げられるほど地域性のある好企画としてFM戸塚から全国へ発信している番組であることを知っておいてほしいと思います。

■ 放送番組全般に関するご意見・ご感想

審議委員（A）

- ・コロナウイルスの関係（非常事態宣言）で、家にいる時間が多く如何してもラジオを聞く機会が多くあります。ここからは小生の個人的な感想です。
- ・毎週 12:00~14:55 まで戸塚井戸端会議と言う番組が流れていますが、この時間は一日の中で丁度中間に当たり、昼食やゆったりしている時になります。何曜日の放送とは申しませんが、言い回しの間違い、その訂正の仕方や交通情報の伝え方・ニュースの読み方等、とっても素人のように聞こえる時があります。
- ・番組のコンセプト及び方針が判らないのですが、小生がラジオを聞くときはやはり、耳に心地よい言い回しで有ったりプロの言葉の使い方だったりを期待します。リスナー離れがとっても心配です。番組構成に一考をお願い致します。

審議委員（B）

- ・新型コロナウイルス感染症の状況下、番組構成などにもご苦労されることも多いと思いますが、時間を捉えて、良い企画を放送されていると思います。
- ・特に 4/29 放送の 11 周年企画では、様々な方からの応援メッセージにたくさんの方が元気をもらったのではないのでしょうか。

審議委員（C）

- ・リスナー層に関するデータ等、可能な範囲で共有いただけますと、番組審議委員を勤めさせていただくうえで、また栄区として広報のご協力をお願いさせていただく際にも大変参考になると思います。ご検討いただければ幸いです。

審議委員（D）

- ・議案 1 にも書きましたが、ラジオの面白さはリスナーとパーソナリティの対話の面白さだと思っています。別の番組に送ったメールがあります。

「30 年以上前の深夜放送のディレクターが回顧していたが、パーソナリティとリスナーとの間には、時には兄弟であったり、親父であったり、親友関係が生まれてくる。リクエストのハガキに次第に人生相談まで書かれてくる。今はメールだが、当時の SNS がハガキだった。媒体は違うが昔も今も基本的な関係は変わらない。」という内容です。今回の番組は 30 分と短いのでハガキ紹介までの時間はないかもしれませんが、きっとリスナーからの声もお二人には届いていることでしょう。

■ 各審議委員からのご意見に対して、事務局から下記の回答を、郵送いたします。

- 1) 番組「ラジオの絆」は内容については良い点が多くあるので、これからはニュース・交通情報など情報伝達のアナウンスメントには、下読みをしっかりと対応してほしいこと。企画コーナーについては、どんなリスナーが聴いても分かりやすい伝え方に改善してもらうこと、2時間という全体の進行をスムーズに進めるための起承転結、情報内容にメリハリをつけること、などなどをアドバイスする。
- 2) コミュニティFMのパーソナリティとしての相浦やよい氏の在り方について、社内でしっかり議論し、統一見解を得た上で、納得してもらい、番組に携わっていただく。NHKや一般民放、あるいは有線放送など放送メディアの違いを把握した上で、番組ターゲットにどのように番組を聴いてもらうか、議論して方向性を決めていきたいと思う。

■ 次回の番組審議会開催

次回か開催日は、各委員に連絡を取り、来る7月中に開催すべく調整いたします。

以 上